

地方創生インターンシップ推進に向けた自治体・大学等の連携事例集【概要版】

地方創生インターンシップの推進にあたって、自治体と大学等がどのようにすれば効果的な連携を実現できるかということについて、実際の取組事例を、連携の観点ごとにとりまとめたもの。

事例集(本編)のコンテンツ

事例集作成の背景と目的や、自治体と大学の連携協力の進め方、その他、大学や学生へのアンケート結果等を掲載。

1.はじめに	1.本事例集の構成 2.自治体と大学との連携協力に係る5つの重要な観点 3.本事例集の使い方	
2.自治体と大学との連携協力の進め方	観点1 大学を知る	<ul style="list-style-type: none"> 大学・学生のスケジュールや関心を知る 中長期的に従事する職員をおく
	観点2 大学と関係構築する	<ul style="list-style-type: none"> どの大学等と連携するか考える 連携の開始の仕方を考える
	観点3 大学に情報提供する	<ul style="list-style-type: none"> 大学等が指導に使える情報を提供する 学生に具体的メリットも提供する
	観点4 大学と協働する	<ul style="list-style-type: none"> 情報提供方法について大学に相談する 協働する体制を構築する 学内説明会の設計・運営を共同で行う インターンシッププログラムを大学とつくる
	観点5 学生の地元活動を支援する	<ul style="list-style-type: none"> 学生が自治体に相談しやすい体制をつくる 複数の学生の地元活動を一括支援する
3.大学の現状を知る	1.大学アンケート結果 2.大学等ヒアリング結果	
4.学生の現状を知る (学生アンケート結果)		
5.地方就職者の現状を知る (地方就職者による座談会結果)		

事例集(本編)の使い方

- 事例集(本編)では、見開きで理解できるように構成。
- 左側には、「よくあるお悩み」として、自治体等が取り組む上で悩む点と、解決へのヒントを記載。
- 右側には、自治体・大学等の事例を、簡潔に図示・例示。

知る
関係構築する
情報提供する
協働する
地元活動支援

2-1. 観点1: 大学を知る

この観点のポイント

【大学・学生のスケジュールや関心を知る】
 ・インターンシップの検討や参加に際し、重要になるスケジュールや大学等・学生のニーズを把握します。
 【中長期的に従事する職員をおく】
 ・大学等との意思疎通が一定程度進んだ後も、継続的に連携を進めます。

大学・学生のスケジュールや関心を知る

よくあるお悩み

学校行事等と重なって
学生が集まらない

大学や学生のニーズが
よく分からない

・せっかくインターンシップに参加する意欲のある学生がいても、インターンシップ予定期間が大学等の行事(試験期間等)と重複して参加できなくなるようなことが生じがち

・インターンを受け入れて欲しい企業のリクエストや、大学・学生にとって魅力のあるプログラムの企画や周知方法など、大学・学生等のニーズが必ずしもよく分からない

事例にみる 解決に向けたヒント

ヒント①: 大学等と自治体の双方の「年間予定」を年度開始前に情報交換

利点

- 地域企業への周知を経て、学生が参加しやすい時期に実施可能
- 大学内の説明会等、自治体実施予定のイベント等のPRが可能 等

ヒント②: 大学・学生のニーズを把握するため、大学と意見交換する場を持つ

利点

- 定期的意見交換で確実に大学側と情報交換する機会を確保
- イベント等の開催時には随時の意見交換の実施も組み合わせることで、きめ細かなニーズを把握 等

ヒントとなる事例

事例①: 年度が始まる前の年間予定の情報交換

自治体 ↔ 自治体のスケジュール ↔ 大学
 大学 ↔ 大学のスケジュール ↔ 自治体

学生の参加に支障のないインターンシップ開催時期を提案可能

年間のキャリア教育の中に自治体のスケジュールも盛り込んだ上で、学生に指導(参加を具体的に促す)

- 大学の試験・学園祭等のイベント
- キャリア教育に関するスケジュール など

事例②: 定期的意見交換と、随時の相談の組合せ

自治体 ↔ 2-3ヶ月に一度の定期的会合 ↔ 大学

定期的交流会

- 自治体のイベントに対するフィードバック
- 学生からの希望があり、インターンを企画してほしい企業のリクエスト

この企画、見せ方で学生は関心を持つか?

自治体 ↔ イベント等開催時の情報交換 ↔ 大学

必ず、事前に大学等に相談を行って開催

アドバイス

「よくあるお悩み」と「解決に向けたヒント」（概要）

連携協力に係る観点		よくあるお悩み	解決に向けたヒント	
観点1 大学を知る	<ul style="list-style-type: none"> 大学の事情や連携協力のインセンティブ、学生へのインターン・就職指導の実態について知る 	担当者の異動で大学との関係がゼロに戻る	大学との連携を中長期的に担当する、専従の職員を配置	<ul style="list-style-type: none"> 大学に関する知識・人脈の蓄積・強化が継続的に可能になる 大学に安心・信頼してもらい、積極的な連携を引き出せる 等
観点2 大学と関係構築する	<ul style="list-style-type: none"> 大学と連携協力するにあたり、目的・目標の具体化をすると同時に、どの自治体とどのような内容で連携協力するかを決める 	どの大学等と連携協力すべきかわからない	基準をつくり、連携優先度の高い大学等を客観的に抽出	<ul style="list-style-type: none"> 実のある連携協力を実現できるような大学等を選べる 自治体の限られたリソースを効率的に活用できる 等
観点3 大学に情報提供する	<ul style="list-style-type: none"> インターン情報や地域情報など、大学、学生が知りたい・使いやすい情報について、使いやすい形で提供を行う 	イベントを県内外で行っても、学生の集まりが悪い	イベント参加で学生が割引を受けられる等の具体的メリットの提供	<ul style="list-style-type: none"> 学生が就業体験や情報入手以外のメリットも感じ、参加の誘因になる 学生に「面白さ」を感じてもらい、参加してもらいやすくなる 学生が複数のイベントに継続的に参加しやすくなる 等
観点4 大学と協働する	<ul style="list-style-type: none"> 情報提供を超えて、様々な活動において、より深く協働する 	説明会で学生が関心を持ってくれない	学生が盛り上がるような説明会のコンテンツ・魅力を大学とともに考案	<ul style="list-style-type: none"> 学生のことを最もよく知る大学等からのアドバイスを受け、学生が参加に魅力やインセンティブを感じる「仕掛け」を組み込める 等
		大学が積極的に学生を送り込んでくれない	大学に安心・信頼してもらえ、インターンシップに係るルール等の情報提供	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップのルールがあることで、大学側が安心して学生を送り出すことができたり、学生や親に説明することができる一助となる 等
		情報提供以外の大学との連携方策がわからない	合同説明会の設計・運営を大学・企業・自治体で連携して実施	<ul style="list-style-type: none"> 学生のことを最もよく知る大学等からのアドバイスを受け、大学とともに、学生の関心を惹き、成果を上げられる説明会を開催できる 等
観点5 学生の地元活動を支援する	<ul style="list-style-type: none"> 学生が地元でインターンシップをする際に支援する 	サポートしたいが、学生がいつ地元に来ているのかわからない	大学に学生を集団で地方に送り出してもらうことを依頼	<ul style="list-style-type: none"> 大学の担当者が、地方就職を希望する学生をまとめて地方に送り出すことで、自治体側は学生の地元活動を確実に認知し、効率的に支援することが可能となる 等
	学生の地元活動を支援する効率的な方法はないか			

是非、『地方創生インターンシップ推進に向けた自治体・大学等の連携事例集【本編】』をご活用下さい。

～ <https://www.chisou.go.jp/sousei/internship/index.html> ～